

阿賀野市蕪木遺跡現地説明会

[新潟県阿賀野市堀越字蕪木1974ほか]

～阿賀野市内最大の平安時代の掘立柱建物～



① 平安時代の大型掘立柱建物(ほったてはしらたてもの)(長さ約19.5m・幅約9.5m) 南東側から
平面形は梁間(はりま)2間×桁行(けたゆき)6間を身舎(もや)とし、3面に廂(ひさし)を持つ総柱建物
と考えられます。柱は直径20～30cmで、両方の側柱が太く、中央の棟持柱が細い特徴が認められます。
なお、南東側の廂部分は別の建物の可能性もあり、これを除いた長さは約16mとなります。

1 はじめに

蕪木遺跡の発掘調査は、一般国道49号阿賀野バイパス建設に伴い平成26年7月から行っており、今回の調査面積はA～D地区の合計約4,700㎡です。遺跡は旧阿賀野(あがの)川や旧小里(おさと)川によって形成された自然堤防上に立地し、標高は約10mです。

これまでの調査で、平安時代(9世紀中頃)と鎌倉～江戸時代の遺構・遺物が見つかりました。平安時代の大型掘立柱建物は長さ約19.5メートル・幅約9.5メートルで、平安時代の建物としては阿賀野市内で最大のものです。また、鎌倉～江戸時代の遺構は井戸や火葬土坑などがあります。蕪木遺跡は当地域の古代史を考えるうえで重要な遺跡です。

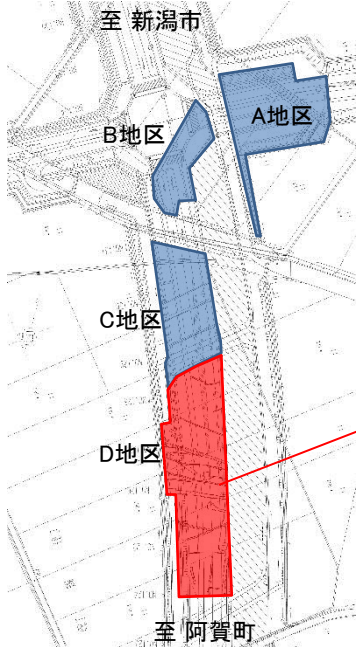
このたびの現地説明会はD地区を中心に調査途中の成果を公開するものです。調査は11月まで実施する予定で、今後、新たな発見がある可能性があります。なお、当事業団が調査した周辺遺跡の出土品も併せて公開します。

平成26年10月18日(土)

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
株式会社 帆苺組

2 見つかった遺構

平安時代の大型掘立柱建物1棟・溝5条・土坑7基、鎌倉～江戸時代の井戸1基・火葬土坑1基・溝5条などがあります。



平成26年度発掘調査範囲
(S=1:4,000)



④ 平安時代の土坑(どこう)
長さ約2mで、須恵器などの遺物が出土しましたが、用途は不明です。こうした土坑は北西側に集中します。



⑤ 鎌倉～室町時代の井戸
深さ約1.5mで、底から水溜め用の曲げ物が出土しました。



D地区遺構配置図
(S=1:400)



② 平安時代の溝
黒色土器有台碗などの土器が多数出土しました。大型掘立柱建物の雨落ち溝の可能性がります。



③ 大型掘立柱建物の柱穴
柱は一辺60cm前後の方形の穴(掘方)の中に埋め立てられていました。



⑥ 室町～江戸時代の火葬土坑
幅1mの方形の穴に火通し溝が付いたもので、人骨と見られる焼けた骨が出土しました。

凡例	
	平安時代の溝
	鎌倉～江戸時代の遺構
	平安時代の土坑
	地震による液状化現象か所

3 出土遺物

9世紀中頃の須恵器(すえき)や土師器(はじき)が出土しています。大型掘立柱建物に伴う溝からは佐渡小泊窯(こどもりよう)産の須恵器が多く出土しており、五頭山麓古窯(ごずさんろくこよう)産の須恵器も少量伴います。土師器は内面を黒色処理した有台椀(ゆうだいわん)や鉢(はち)のほか、鍋(なべ)・甕(かめ)などがあります。また、当時の愛知県域で生産された希少な灰釉陶器(かいゆうとうき)の皿も出土しています。



灰釉陶器 皿 (長さ約4cm、左:表/右:裏)



黒色土器有台椀 (口径16cm)



須恵器・土師器

4 まとめ

蕪木遺跡は9世紀中ごろの大型掘立柱建物や希少な灰釉陶器が見つかることから、当時の郡衙(ぐんが)に関係した官衙(かんが)関連遺跡の可能性がありますが、調査範囲が限定されているため全体像は不明な点も多く、今のところ官衙を示す遺物も出土していません。

阿賀野市内では唐三彩(とうさんさい)が出土した山口(やまぐち)遺跡や、沼垂郡(ぬたりぐん)の役所として機能していたと考えられる発久(ほつきゅう)遺跡・腰廻(こしまわり)遺跡などがあります。これらの遺跡は、いずれも蕪木遺跡と同様に河川や潟に程近く、河川交通の便に利した立地にあり、蕪木遺跡はこうした遺跡と有機的に結びついていた可能性があります。



(平成19年 阿賀野市全図)

蕪木遺跡と遺物を展示する周辺の遺跡位置図(1:30,000)